

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

寒波とコロナ感染第3波！踏ん張る地域と生活支援CO!!

豪雪被害と集落の孤立。住民の健康状態が心配です！

苦悩:その1

高齢化×豪雪×コロナで人手不足

- 新温泉町：雪で倒木し、停電しています。今年は家族も帰ってこないで、町は高齢者ばかり。マンパワーが足りません！
- 香美町：雪で停電して、低体温で救急搬送が増えました。雪かきはコロナ感染拡大防止のため応援が頼めないかも…。

工夫策

- 山間部は、もともと冬の雪が多く帰省が少ないので、住民同士が助け合いながら雪かきしています。
- コロナ禍ですが、感染対策しながら有志での雪かきボランティアに来てもらいました。

【雪の多い地域の知恵 参考】

- 北海道札幌市：雪対策ライブラリー
- 北海道札幌市社協：福祉除雪事業（利用者負担金と有償の地域協力員）
- 岩手県雫石市社協：スノーバスターズ事業（中高生・行政職員による「雪んこ見守り隊」）
- 北海道庁作成：停電時の社会福祉施設等の対応

コロナ感染第3波が!!

苦悩:その2

つどい場の運営×コロナ禍の開催責任

- 猪名川町：市から自粛要請のなか、クリスマス会をようやく開催しようと準備していた地域がまたダメになり地域活動者がもう一度活動を練り直す等、板挟みになっているところがあります。
- 西宮市：地域でクラスターが発生すると、組織のリーダーは、活動に参加する人も含め守らなければならない責任感と活動を続けるかとの軋轢。

地域・COの動き

コロナ禍での地域住民や生活支援COの取り組みをお聴きしました。

一緒に考える



一緒にじっくり考えよう。

いまあるものを工夫する

今までのやり方



少し工夫を

新しい取り組みも試す



あらたな方法を

裏面に実践事例を紹介

【発行元】(令和2年12月28日発行)
 〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
 TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
 E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当: 山下・永坂)



コロナ第3波！あきらめない！県内社協、生活支援 CO の取り組み

寄り添い、一緒に考える

開催者の心理的負担を軽減する

ポイント

多様性を認める

【西宮市社協】苦悩する地域住民の気持ちに共感し、『やっていくことだけが素晴らしいのではなく、多様性があるってよいこと』や、『あきらめない』ことを伝えることが大切ではないでしょうか。

【三木市社協】サロンのリーダー等が、第3波になってあわてないのは、第1波から住民と話し合いや代替え案等の情報発信を続けてきて、住民も訪問等の際に感染予防を工夫できるようになったからではないでしょうか。

いまあるものを工夫する

接触時間を短くしつつも、人と人のつながりを途絶えさせない



【豊岡市社協】自粛が余儀なくされ、8月の花火が中止になると、住民はコミュニティで各家に線香花火を配りました。そして、例年の花火の日の20時になると一斉に家のまえで線香花火を行いました。そんな取り組みを「ささえあいカレンダー」にして歳末に民生委員・児童委員さんたちが気になる人のところに配っています。そのカレンダーの最終ページには市内の相談の窓口と緊急連絡先が書きこめることができるようになっています。

【穴栗市社協】移動が困難になった高齢者は自粛でさらに動きにくくなっています。そこで、移動販売車の事業所に聞き取りを行い、移動販売車が向かう先に行きます。そこに集まった人たちに話しかけると近辺の様子もわかります。また、移動魚屋さんにも同行して買いに来た人から気になる人を聞いて、チラシをその方の家のポストに入れていきます。



あらたな取り組みも試す

新たな取り組みで住民の気づき・資源開発

ポイント

きっかけは柔軟に

【朝来市社協】コロナの感染が拡大してからは集まるのが大変。こんな中で、朝来市社協が考え出したのが「サポートちゃれんじゲーム」。このゲームは2種類のカード（お願いカード・ちゃれんじカード）で、自分が高齢になった時のことを想定したり、自分がチャレンジできそうなことを選んで出していきます。コロナでさみしさに拍車がかかった自分の地域を見直し、支え合う体制をつくるために、地区社協や民生委員さんの集まり等で行いました。すると、出し切ったカードから分かる地域の課題や支援の必要性が見えてきました。住民からは、「きっかけがないと助けてと言えない。これで助けてとうまく出せるきっかけになるのでは」との意見も出ました。「今の時期だからこそ、動かすにはいられない。できなければできるだけ方法で考えていく」と生活支援 CO は力強く話します。



【三田市社協】「さっちゃんのお福分けネットワーク」で就学援助の第1弾を5～6月に行いました。その時にLINE登録を取り入れ、約350人の登録がありました。今回は第2弾「さっちゃんサンタプロジェクト」を実施。三田市の子育て世帯、子ども食堂へクリスマスプレゼント（お米、お菓子の詰合せ）を届けました。このプロジェクトの真のねらいは、「孤立させないネットワークづくり（つながりづくり）」。「できるだけ多くの方に子どもの貧困や生活困窮等に少しでも関心を持ち、地域福祉活動に参加するきっかけになればとクラウドファンディングを行いました。」

【編集後記】

年末に向けて、新型コロナウイルスの感染拡大の第3波への自粛が叫ばれる中、北部では観測史上にない大雪に襲われました。次々と試練を迎える地域住民の苦悩に寄り添っている専門職が県内にはたくさんいます。こんな時だからこそ、地域に寄り添い、あきらめない姿勢を示すことが、住民の安心と信頼につながるのではないのでしょうか。